

大会テクニカルレポート

大会名 第6回 5年生選抜研修大会

日時 1月21日(土) 1月28日(土) 会場 小石川運動場/赤羽スポーツの森公園競技場

東京都少年サッカー連盟 委員長 高山 清
技術指導部長 井上 雅志
文責 技術指導部 岡嶋 稔

結果概要

| | 試合数 | 得点数 | 1試合当たり得点数 |
|-----|-----|-----|-----------|
| 今大会 | 28 | 112 | 4 |

講評 東京都少年サッカー連盟技術指導部が目指す理想の選手育成のために

①観て判断する

常にボール状況、味方・相手のポジション、スペースなどを意識してプレーをしている選手もみうけられたが、全体の半数には満たない印象だった。相手選手のプレッシャーがゆるい中ではパフォーマンスを発揮できる選手が多いが、プレッシャーが厳しくなると予備動作での観る余裕がなくなる。結果、足元に止めてしまい、ヘッドダウンが多くなり相手選手に奪われる場面が多くなっていた。相手のハイプレッシャーの中でも選手一人一人が優先順位を意識して、局面において相手選手との駆け引きをしながらゴールを目指してもらいたいと強く感じた。そのためには日々のトレーニングにおいて、オフの動きの重要性を指導者が今以上に伝えるべきだと感じた。

②判断を伴ったテクニックの発揮をする(ファーストタッチの質・プレーの選択)

相手選手から離れ、よいポジションを取りながらファーストタッチのコントロールで相手選手を置き去りにしてゴールへ向かうプレーが何度かみられた。また、状況に応じて縦に急ぐだけでなく一度下げてボールを失わずにポゼッションする場面もみられた。スペースへ走り込みボールを受けるなど出し手と受け手の連携からほかの選手がかかわることでゴールを目指す場面もあり選手一人ひとりが判断をしながらテクニックを発揮できる場面もいくつかみられた。しかしながら、相手のプレッシャーが厳しくなるとファーストタッチのコントロールの質の低下やプレーの選択に余裕がなくなり、ボールを出すところを限定されインターセプトからカウンターを受ける場面もみうけられた。

③攻守に関わり続ける

攻撃時にはボール保持者に対し2・3人が追い越す動きや、パスを受ける動きを積極的に行っていた。また、パスを出した後に、もう一度ボールを受けられるように動く選手は数多くみられた。ボール保持者に対し、ボールを持っていない選手が良いポジションでのサポートになっておらず、効果的な攻撃につながらない場面もみられた。守備の場面においては奪われた瞬間にアプローチに行く選手などプレーを連続して行なう選手は非常に多くみられた。ボールを奪われてすぐ、ファーストディフェンダーとなって奪いに行くことで相手の攻撃の芽を摘む動きは非常に素晴らしく感じた。

④積極的にコミュニケーションできる

攻撃時はピッチ内でボールを要求する声や空いているスペースを伝えたり、ボール失わないように一度後ろに戻し逆に展開させるなど積極的に行っているブロックもあった。ピッチだけでなくベンチの選手も一緒になって効果的な攻撃の指示を出せていたことは素晴らしいと感じた。守備時は選手同士で声を掛け合い、ファーストディフェンダーの決定やどこに追い込んでいくかなど具体的な指示を出せていた。ゴールキーパーは常に声をだし、チームを鼓舞する姿が印象的だった。内容としては効果的に攻められるように、攻撃への働きかけや、前線からディフェンスをさせるように声をかけていた。

⑤リスペクトの心をもてる

相手選手に対してファールをしてしまった後、自発的に相手に謝る姿が多くみられた。審判に対しても、ジャッジに対する不平不満は一切なく笛が鳴り終わるまでお互いに戦っている姿勢は素晴らしかった。また、施設内にごみを拾ってくれたブロックもありピッチ外でもリスペクトの心を持つ選手が増えてきたことを実感することができた。

総評

GKからビルドアップして簡単に相手ボールにならないよう繋いでいく組み立てはすべてのブロックが実施していた。攻撃時には選手の特徴を生かし、サイドからの崩しや中盤からトップへ早い縦パスを入れて崩す攻撃など見ごたえがある試合が多かった。守備においても奪われた後すぐに奪われた選手がファーストディフェンダーになるなど攻守の切り替えが非常に早くできていた選手も多くみられた。今後の課題としてはハイプレッシャーの中でも発揮できるテクニックを身につけ、オフの部分での相手選手との駆け引きを攻守時にできる選手が多くなってもらいたい。そのためには「観る」ことが重要で「いつ・何を・どのように観る」のかを選手がピッチ上にて習慣化できるように指導者の責務は重要と感じた。最後に、今回16ブロックの女子選手は大会に参加してから初めて勝ち点2をあげた。引き分け2試合だったが、押している場面も多くみられた。5年生という年代では大きな差はなく戦えることを実感できた。初の女性監督・女性コーチにて参加し、勝ち点を奪えたことは今後の女性指導者の自信にもつながり女子選手もできるんだということをどんどん発信してもらいたい。来年こそは一勝を目指したい。